

平成26年度 学校経営方針

練馬区立石神井西中学校
校長 松丸 晴美

1、学校経営の理念

- I どの生徒も磨けば輝く宝である。その生徒の良さを発見し、伸ばすための効果的な指導の役割を担うのが教師である。
教師の言動は、生徒の将来にわたって大きな影響力を及ぼす。一人一人の教師が、敬愛される教師となるために、日々研鑽を積み、専門性と人間力を高め、組織的に教育活動に当たる。
- II 魅力ある石神井西中学校づくりに向けて、68年間の歴史と伝統を踏まえ、生徒・教職員・保護者・地域社会の人々がそれぞれ構成員である自覚をもち、進んで自らの役割を果たそうとする。
- III 組織の和を重んじ、良き伝統は受け継ぎ、課題解決や改善に向けては、迅速にかつ組織的に対応する。

2、学校の教育目標（教育課程届けより）

生徒一人一人を深く理解し、豊かな人間性と未来に生きる力をもった人間を育てるため、次の教育目標を設定する。

- 教育目標
- ◇ 健康で自主性に富み、実行力のある人
 - ◇ 自由と責任を重んじる人
 - ◇ 仕事と勉強にうち込む人
 - ◇ 自分や友達を大切にし、よい集団を育てる人

3. 目指す学校の姿

◇社会の激しい変化とグローバル化の進展の中にあって、自ら考え、主体的に判断して行動できる力の育成と人間力の向上を目指す学校

4. 目指す生徒・教師の姿

【生徒】

- ◇夢や志を持ち、自分の可能性に挑戦し、努力し続ける生徒
- ◇より良い学校づくりに主体的に取り組み、協力して活動できる生徒
- ◇心身の健康づくりに努め、国際的な視野をもち、人との共生を図る生徒

【教師】

- ◇生徒の自己実現に向けて使命感をもって教育にあたり、労を惜しまず面倒を見る教師
- ◇授業や生徒指導に情熱をもってあたり、専門性を磨き指導者として向上し続ける教師
- ◇学校運営への参画意識をもち、主体的かつ組織的に、自らの役割を果たす努力をし続ける教師

5. 期待する保護者・地域社会の人々の姿

- ◇我が子のしつけを責任もって行い、自立に向けて学校と連携・連絡を密にする保護者
- ◇学校に建設的な意見を述べ、積極的にボランティアとしてかかわる保護者
- ◇生徒を我が子と同様に温かく見守り、声をかける保護者・地域社会の人々

6. 目指す学校・生徒・教師の姿を具現化するための中期的目標と達成するための基本方策

人間尊重の精神を基盤に、生涯学習の基礎を培うという視点に立って、以下の事項を柱にして、教育活動を推進する。具体的な取り組み、達成目標を各分掌・学年・教科等で作成し、共通理解に基づき、一人一人の教職員が自覚をもち、責任をもって役割を果たすとともに、チームを組んで、目標の達成に向けて組織的に取り組む。

<学校経営の基本となる7本の柱>

- 1 豊かな心の醸成
- 2 確かな学力の定着
- 3 自立にむけたキャリアの形成
- 4 自主・自律の精神の伸張
- 5 健康・体力の増進
- 6 国際人となる資質の育成
- 7 地域に信頼され、愛される学校

(1) 豊かな心を醸成する

- ① 一人一人の教師が、日頃の教育活動や言動を見直し、人権感覚を磨くとともに、人間尊重の視点にたち、生徒同士、生徒と教師の望ましい人間関係づくりを推進する。
- ② いじめや差別がなく、一人一人の生徒が存在感や自己有用感を体感できるような学年・学級経営を目指し、経営計画を作成して提示し、絶えず工夫・改善に努める。
- ③ ガイダンスや日常の教育活動を通して、生徒との触れ合いの機会を多く持ち、心身の状況の把握に努め、適切な相談・援助・指導を行う。
- ④ 道徳の時間を年35単位時間確保し、生徒の実態に応じた資料の活用・展開・発問を学年全体で工夫・改善するとともに、全教育活動を通して道徳的実践力を高める。
- ⑤ スクールカウンセラーやふれあい相談員、外部機関の活用・連携を通して、特別支援教育を推進するとともに、学校不適応などの諸問題への支援の充実に努める。
- ⑥ 生徒の社会性や豊かな人間性の育成につながる体験活動やボランティア活動、奉仕活動を工夫し、実施する。ボランティア活動・奉仕活動については、卒業までに、全校生徒が必ず1回は体験する機会を設ける。

(2) 確かな学力を定着させる

- ① すべての教科で、問題解決的な学習を取り入れるなど、指導内容・指導方法・評価等の工夫・改善を行い、生徒の思考力・判断力・表現力の一層の向上に努める。
- ② 生徒・教職員、保護者・関係者等による授業参観アンケートや各種の学力調査結果を活用し、わかる授業の実現を目指し、学力を向上させる。また、基礎・基本の確実な定着

と生徒の学習意欲の喚起を目指し、定期テスト前や放課後、夏季休業中などを活用した補習・補充指導を全校体制で行う。また、家庭学習を充実させるための指導を行う。

- ③ 生徒の努力を認め励ます、適正で信頼される評価の実現に向けて評価資料（単元ごとの指導・評価計画、評価規準、評定への総括方法等）を整え、評価の方法や評定決定の方法などについて保護者、生徒に対し、年度当初及び学期末に説明を行って理解を図るとともに、いつでも根拠を示して説明できるようにする。
- ④ 朝読書、マイブック活動を活用して、読書に親しむ態度を育てるとともに、生徒・教師の言葉や掲示物などの校内の言語環境を整え、「言葉」を大切にする態度を育む。また、各教科や総合的な学習の時間等において、文章を読み解く力、自分の考えや調べたことをまとめる力、表現し、わかりやすく伝える力などの言語を活用する力を伸長させる取組みを意図的に行う。
- ⑤ 全教員が年1回以上指導案を作成して授業研究を行い、講師等の指導・助言を受けて授業改善を図るとともに、相互授業参観を行い、助言し合うことを通して授業力の向上に努める。また、都・区教育委員会が主催する研修会に参加するなどして、指導力の向上を図る。

(3) キャリア教育の視点に立った進路指導を充実させる

- ① キャリア教育の基礎的・汎用的4つの能力（人間関係形成・社会形成能力、自己理解・自己管理能力、課題対応能力、キャリアプランニング能力）を全教育活動を通して育成していく。
- ② 総合的な学習の時間では、「自立と共生」をテーマに、体験的・課題解決的な活動を行い、学習のまとめや発表を通して学び方を身に付けさせるとともに、学ぶ意欲を醸成し、主体的な実践（活動）につながる時間となるよう計画し、一人一人の社会的・職業的自立に向け必要な基礎となる能力や態度を育てる。
- ③ 自己の在り方を見つめさせ、人や社会とのかかわる態度や自己の役割・生き方を考えさせるため、外部講師を招聘した講演や授業などを積極的に行う。特に3年生においては、上級学校への進学目的を明確にもたせ、希望する進路が実現できるようガイダンス機能の充実に努める。

(4) 特別活動を核に、生徒の自主性・自律性を伸長させる

- ① 自ら考え、主体的に行動できる生徒の育成を目指し、意図的・計画的な教育活動が実施できるよう生徒会活動や学校行事等の工夫・改善に努めるとともに、リーダーとなる生徒を育成する。
- ② 遅刻指導やあいさつ指導、服装・頭髪指導、持ち物指導、集会指導など、学校生活においてルールやマナーを遵守させる指導を全職員で組織的に行うとともに、「自由と自治」の伝統を正しく理解し、実践できる生徒を育成する。また、規範意識や自ら考え、正しい善悪の判断に基づいて行動できる自律性、公共心などの社会生活の基礎基本を身に付けた生徒を育成する。
- ③ 運動会や合唱コンクール、集団宿泊的行事などを通して、望ましいコミュニケーションの在り方や協力して取り組むことの価値を知り、結果だけではなく、取り組み姿勢・過程に対する評価を行い、一人一人の生徒に達成感や充実感を体感させる指導を行う。
- ④ 生徒会を中心に、地域に貢献する活動を年2回以上企画し、有志生徒を募り行う。

(5) 健康と体力の増進に努める

- ① 安全管理を徹底し、事故防止に努めるとともに、事故発生時の訓練や自然災害等の発

生時の訓練を年間計画に基づいて、適切に実施する。特に、震度 5 弱以上の地震を想定した訓練を様々な時間帯や状況を想定して行い、指示がなくても自ら判断し、身を守ることができる力を身に付けさせる。

- ②校舎内外の環境の整備・美化に努めるとともに、自ら清掃・美化活動に取り組む態度を育てる。
- ③ 生徒の健康づくりの推進に向けて、年間を通した学校保健計画を作成するとともに、学校保健委員会、栄養士、外部講師などを活用した食に関する学習・指導を行い、家庭や地域に啓発する。
- ④ 生徒の活動の喜びと得意分野の伸張を図るため、全教員が部活動の顧問となり、外部指導員に活用や保護者と連携しながら協力して指導にあたりるとともに、部長を中心とし、主体的に活動できる生徒を育成して、部活動の一層の充実を図る。
- ⑤ 喫煙防止教育、セーフティ教室、薬物乱用防止教育などを適切に実施するとともに、道徳の授業等を通して、自他の生命を大切に作る心や態度を育てる。

(6) 国際人となる資質を育成する

- ① 日本の伝統・文化への理解を深める教育活動を教科や特別活動などと関連させて行い、我が国と郷土を愛し、誇りに思う気持ちを醸成する。
- ② 道徳の授業を始め、全教育活動を通じて、他国の文化・伝統や他国の人を尊重する気持ちや態度を醸成する。
- ③ ALT の活用を図り、英語の授業や特別活動などとの関連を図りながら、英語でのコミュニケーション能力を高めるとともに、英語検定試験の奨励や少人数授業を生かして、英語を学ぶ意欲や英語力の向上を図る。
- ④ ユニセフや海外青年協力隊、各国大使館、留学生など海外で活動するゲストティーチャーを招聘するなどして、世界の動きや他国について知る機会を設け、国際社会に対する興味・関心を高めるとともに、国際貢献の在り方について考える機会を設ける。

(7) 保護者や地域に愛され、信頼される学校づくりを推進する

- ① 学校評議員会を年 3 回開催するとともに、評価委員会の意見や外部評価（生徒・保護者）を学校運営に生かし、教育活動の工夫・改善に努める。
- ② 「学校だより」や「学年・学級通信」「保健・給食・相談・図書、各教科」などの各種たよりを適宜発行し、学校からの情報提供を積極的に進めるとともに、ホームページを充実させ、教育活動の発信を積極的に行う。
- ③ 保護者や地域避難拠点会議と連携した総合的な防災訓練の在り方を工夫し、行う。
- ④ 立野小学校、石神井西小学校、関町小学校への広報活動や連携した教育活動を工夫し実施するとともに、平成 27 年度からの小中一貫教育の研究・実践の進め方を検討する。

(8) その他

- ① 自らの心身の健康状態・互いの健康状態に留意し合い、本校の教育活動を向上させるために相互に補完・協力し合う。ネットワーク・チームワーク・フットワーク 3 つのワークを充実させ、組織的に職務に取り組み、学校力の一層の向上に努める。
- ② 公務員としての自覚を持ち、常にサービスの厳正を図るとともに、相互に服務事故防止に努める。また、OJT の推進と校内研究・研修を充実させ、資質の向上に努める。
- ③ 総合的な視野に立った予算編成及び計画的・効率的な予算執行に努めるとともに、常にコスト意識を持って職務を遂行する。同時に、机上の整理整頓・職員室やその他の教室等の環境整備・鍵や資料、個人情報管理徹底を心がける。

7、今年度の重点

項目	重点目標
学習指導	① 基礎・基本の確実な定着のために補充指導を充実させる ② 家庭学習習慣の形成と内容を充実させる
生活指導	① 時間を守らせる指導を徹底する ② あいさつがしっかりできるようにする ・声に出してあいさつができる（集会時、校内で） ・号令をかけなくても、そろっておじぎができる集団 ③ バッチの指導を徹底する。生徒が考え着用してきた服装や着こなしについて、教師がきちんと評価して指導する
進路指導	① 夢や目標をもたせ、具体的な行動計画を立て実践させる ② 各教科において、一人一人の生徒や保護者に、適正な資料を示して評価結果を説明できる
特別活動	① 目標を達成するために、学級や班、チームで協力して意欲的に活動する生徒を育成する ② いじめや差別のない、帰属意識や自己有用感を体感させる学級経営を行う ③ 生徒会を中心に地域貢献活動を実施する
保護者・地域連携	① 保護者や生徒、地域の人たちが参加する行事や祭礼への参加、パトロール、防災訓練などを通して連携する ② ホームページの充実
サービス 資質向上	① サービス事故の防止と個人情報の管理徹底 ② ねらいや説明がわかりやすい授業、思考力と表現力を向上させる授業の実現を目指す

8. いじめ・体罰への組織的な対応

- ① 校長をリーダーとする「石神井西中いじめ対策委員会」を設置し、校務分掌に位置付けるとともに、いじめの未然防止、早期発見、早期対応・解決を目指した取り組みを「石神井西中いじめ対策基本方針」として定め、全教職員が保護者や学校関係者と一体となって、いじめの根絶に努める。
- ② 全教職員が、「体罰は、人権侵害である」との認識にたち、日頃から研鑽を積んで指導力を磨き、相互に体罰を許さない学校風土を醸成する。
- ③ いじめや体罰のない学校の実現に向けて、校長の示す学校経営方針に基づき、副校長、主幹教諭を核にして、全教職員が情報共有、共通理解を十分に図り、問題や課題解決には、チームを組んで素早く対応できる学校力をもつ。